

「ビルメンITの裏側」

人手不足等の解決策としてDXやITが着目されています。本コラムではあえて「IT導入失敗の理由」を挙げる事で、皆様のIT利用の成功に貢献できればと考えております。

連載 ⑫

株式会社 安井ファシリティーズ

ビジネス創造部 部長 伊藤 士

情報処理技術者ITストラテジスト



プロを目指す野球少年と

DXを目指す企業

最近では学校教育にも3DやVRなどの新技術導入が進んでいるようですが、その際に「教育をイ

イベントではダメ！という事でした。これを野球少年とプロ選手の交流イベントに例えてみます。選手に「センス

た少年は野球への情熱がより強くなるでしょう。ただ実際プロになるには、その先の膨大な努力・継続・

残念ながらIT業界も酷似しています。展示会・テレビ・雑誌の最新IT情報は、分かりやすい動画や体験コンテンツが用意され新技術を身近に感じられる。まさに全てが準備されたイベントです。

夢を見る事は大切ですが、本気で実現させるなら「夢と現状のギャップ」、つまり「壁の高さ」を正確に知る必要があります。

壁の高さを知らないのに「超える事」だけ決めるのは最悪！壁の高さを知り、それを超えていくためのステップ、

の指示なら、先に相手が壁の高さをどれだけ知ってるか確認して下さい。イベント知識だけで語られてしまつたら『よく分かりません』と突き返すしかありません。可能なら、

IT導入したが業務定着していない現場に数多く遭遇してきた経験から、建築業界(特に維持保全)向け情報管理改善サービス「パノラマmemo」の事業を立ち上げる。ビルメンテナンス業界からの相談は100件を超える。

ただそれを自社導入するのは別次元。技術・コストなどの大きな壁があるかも。だからイベント程度の知識で業務方針を決めるのはNGです。でも実際は「DX出来るらしいからやるぞ！」との経営方針を丸投げされ、困っている現場に山ほど遭遇します。

つまり階段をイメージしなければなりません。勿論その階段は、壁のてっぺんまで繋がるマトモな階段を指します。これがイベント知識で作られた階段なら：怖くて登れません。そしてこの階段作り・階段のぼりは、少年がプロ選手になるのと同じくらい大変かもしれません。

あと「分からないから外部業者に丸投げ」は危険。越えられない箇所が明確ならそこでだけ外部委託するのはアリですが、壁の高さも階段も分からず外注するのNGです。ちゃんと出来ないと伝えてくれる業者なら良いですが、逆に気合だけで頑張る業者の方が怖いですよ。壁を越えられなくてもお金は払う必要がある

ので。